

正 信 念 仏 偈 25

■曇鸞讚③

往還回向由他力 往還の回向は他力による
正定之因唯信心 正定の因はただ信心なり

現代語訳

往相も還相も他力の回向であると示された。浄土へ往生するための因は、ただ信心一つである。

~~~~~

**前回のあらすじ**

天親菩薩論註解 報土因果顕誓願

(天親菩薩の『浄土論』を註釈して、浄土に往生する因も果も阿弥陀仏の誓願によることを明らかにし…)

→衆生往生の因も果もすべて阿弥陀如来の願力によるものである。その具体的な相について、今回からの「往還回向由他力」以下、六句で示される。

○「往還回向由他力」

『教行信証』「教文類」(『註釈版』135)

謹んで浄土真宗を案ずるに、二種の回向あり。一つには往相、二つには還相なり。往相の回向について真実の教行信証あり。

「回向」に二種の相あり。一には往相、二には還相なり。「往相」とは、おのが功德をもつて一切衆生に回施して、ともにかの阿弥陀如来の安楽浄土に往生せんと作願するなり。「還相」とは、かの土に生じをはりて、奢摩他・毘婆舍那を得、方便力成就すれば、生死の稠林に回入して一切衆生を教化して、ともに仏道に向かふなり。(『往生論註』〈『七祖篇』107) )

それ真宗の教行信証を案ずれば、如来の大悲回向の利益なり。ゆゑに、もしは因、もしは果、一事として阿弥陀如来の清浄願心の回向成就したまへるところにあらざることあることなし。(『教行信証』〈『註釈版』312) )

- ・ **往相回向** = 衆生が浄土へ往生する因である行信も、往生成仏の証果もすべて阿弥陀仏から施し与えられたものであるとする。
- ・ **還相回向** = 往生成仏の証果を開いた者が示す還相の活動は、阿弥陀仏から施し与えられたものであるとする。

『入出二門偈』（『註釈版』546・548）

菩薩は五種の門に入出して、自利利他の行成就したまへり。不可思議兆載劫に、漸次に五種の門を成就したまへり。…（中略）…婆薮槃頭菩薩（天親）の『論』（浄土論）、本師曇鸞和尚註したまへり。願力成就を五念と名づく、仏をしていはばよろしく利他といふべし。衆生をしていはば他利といふべし。まさに知るべし、いままさに仏力を談ぜんとす。

⇒ **五念門は法蔵菩薩の修行内容**

**他力の信心（一心）には五念門行の功德が具足**

五念門…自利利他の功德をそなえる浄土往生の行

- ① 礼拝門…身業に仏を礼拝する
- ② 讚歎門…口業に仏名を称する
- ③ 作願門…意業において精神を統一する
- ④ 観察門…智慧をもって阿弥陀仏の莊嚴相を観察（智業）する
- ⑤ 回向門…前四門において得られた自己の功德を、他の衆生に回向する

☆「他力」ということ・・・他力＝利↓他力

如来よりいえば利他・・・「他を利す」＝（自）利他

衆生よりいえば他利・・・「他が利す」＝他利（自）

**還相の菩薩（浄土から来られた方々）**

安楽浄土にいたる人 五濁悪世にかへりては  
釈迦牟尼仏のごとくにて 利益衆生はきはもなし

※白井 成允（しらい しげのぶ 明治21年～昭和48年）

日本の倫理学者。東京帝国大学卒。龍谷大学、武庫川女子大学教授を歴任。

故長男成徳氏への挽歌・・・

仮の御身をおみを吾子とあらはし 常住のみ法を告げてとく帰ります

○「正定之因唯信心」

『往生論註』（『七祖篇』47）

「易行道」とは、いはく、ただ信仏の因縁をもつて浄土に生ぜん願ずれば、仏願力に乗じて、すなはちかの清浄の土に往生を得、仏力住持して、すなはち大乘正定の聚に入る。

涅槃の真因はただ信心をもつてす。（『教行信証』「信文類」〈註釈版〉229）

**信心正因・・・信心こそが往生成仏する正しき因**